

昭和を愛する平成生まれの特徴に関する研究

齋藤 真歩

近年若者の間で昭和レトロブームが起きている。昭和の音楽を好む若者や、古い店や建物を「インスタ映え」「エモい」とする若者が増えており、テレビ番組でも特集されている。

森田彩加（2012）は、現在の生活に不満を抱いている人ほどノスタルジアを感じやすいことを明らかにした。また、古谷奈菜ら（2019）は、使い捨てフィルムカメラがブームになった要因を、新奇性とノスタルジアの融合であるとした。片桐新自（2007）は、昭和30年代を中心とした昭和ブームの原因を明らかにした。本研究では、昭和を売り物とした商品を対象とせず、かつにわかファンではない平成生まれを対象としており、これらの研究とは研究対象が微妙に異なる。また、現在の昭和ブーム全体についての検討はまだ行われていない。

本研究では、平成生まれが昭和に惹かれる理由と、昭和に魅力を感じる平成生まれの特徴を明らかにするために、インタビューによる質的調査の手法を採った。調査協力者は、昭和が好きな16~28歳の男女12人である。また、比較の対象として、昭和に興味がない人1人にも調査を行った。

調査結果より、昭和好きな人は、昭和を「文化の青春時代」「豊かな時代」と捉えていることがわかった。また、現代または将来に対してネガティブなイメージを持っている傾向がみられた。昭和に興味を持つきっかけは、親子関係が良い人及び悪い人は親からの影響を強く受け、親子関係が良くも悪くもない人はテレビからの影響を強く受けているという結果が得られた。親からの影響が強い人でも、兄弟に昭和好きはいなかった。また、親からの影響で昭和好きになった人は、父からの影響をより強く感じている人が多い。現在はインターネットやSNSですぐに調べられる時代であり、中でもYouTubeの関連動画を表示する機能は、昭和に興味がある人が昭和好きになる大きな要因である。

平成生まれは、物心がついたときから経済的に右肩下がりの中生きている。また、テクノロジーの急激な進化等、環境の変化も大きい。そういった環境で育ってきたことで、経済が右肩上がりであり文化も充実していた昭和、また将来が明るいと考えられていた昭和に憧れを抱くと考えられる。多くの人は森田の研究結果同様、現代への不満から昭和好きになり、昭和にノスタルジーを感じるということがわかった。他方、現代への不満がない昭和好きも3人いたが、いずれも幼少期から昭和の音楽やテレビ番組等に触れて育っている。これにより、幼少期へのノスタルジーと昭和へのノスタルジーが重なっていると考えられる。また、昭和好きでない人も昭和にノスタルジーを感じており、現代において昭和が普遍的なノスタルジーの対象と捉えられている可能性がある。調査結果から、兄弟の比較・昭和好きでない人との比較をより多角的に行うとともに、父と母を区別した親子関係の深堀りによって、昭和に惹かれる平成生まれの特徴について今後新たな発見が得られると考えられる。

（指導教員 後藤嘉宏）